

第2992回例会 令和8年3月26日(木)

出席委員会委員長	山下 民義
会員総数	19名
本日の出席者(免除者)	15名(3名)
本日の出席率	78.9%

会長あいさつ

会長 神谷 林 君

先日の佐久島の桜植樹例会の出席者は10名でした。主力の若いメンバーが欠席でしたが、作業が予定より早く終わりました。ただ苗木の根っこにたくさん水をやらなかったのが枯れてしまわないか心配です。昔に植えた苗木は無事に育っていました。20年後に空から見た時に佐久島が桜色に見えるのでしょうか。皆さん、ご協力ありがとうございました。

来週は浜松城でお花見、はくよ庵でお食事です。桜は散っているかもしれませんが花よりダンゴでよろしくお願いします。

今週のスマイル

親睦委員長 早川比呂太 君

地区青少年交換委員長 加藤謙一君

昨年は大変失礼を致しました。本日はよろしくお願いします。

神谷 林君 加藤謙一君の卓話、楽しみに聞かせてもらいます。

尾崎三枝子君 地区青少年交換委員会委員長加藤謙一様 本日はよろしくお願い致します。

渡邊 徹君 地区青少年交換委員長加藤謙一君、ようこそ西尾一色 RC へ。本日はよろしく申し上げます。

山下民義君 地区青少年交換委員長加藤様、本日の卓話ご苦労様です。

鳥居萬里君 地区青少年加藤謙一君、本日はようこそ西尾一色 RC へありがとうございます。卓話よろしくお願い致します。

田中三千雄君 加藤謙一様、卓話よろしく申し上げます。

牧野美恵君 加藤委員長、はるばる西尾一色 RC までようこそいらっしゃいました。本日はよろしく申し上げます。

久米健史君 長男が幼稚園を卒業しました。桜の植樹ではご迷惑をおかけしてすみませんでした。

池田宣明君 委員長加藤謙一君、本日は宜しく申し上げます。

早川比呂太君 加藤委員長、本日はご指導よろしく申し上げます。

11件 18,000円

本日の卓話

「青少年交換事業について」

地区青少年交換委員会 委員長 加藤謙一君



青少年交換プログラムは、ロータリークラブが実施する国際的な学生交換事業であり、単なる留学とは異なる多くの特徴と厳格なルールがあります。

プログラムの概要とサイクル

派遣前(1年目): 厳しいオリエンテーションを1年間受け、旅立ちに備えます。

派遣中(2年目): 高校1年生で出発した場合は1年間海外で過ごし、帰国後は元の学年に戻ることが一般的です。

帰国後(3年目): 帰国生として新しい候補生に経験を伝える義務があり、これらすべてを修了するとガバナナーからディプロマ(証明書)が授与されます。このディプロマは、大学のAO入試や企業の採用において高く評価されることがあります。

費用とサポート体制

経済的負担: 費用は一般的な留学の3分の1から4分の1程度で済むと言われています。オリエンテーション費用(年間約15万円)や航空券、ビザ取得費などは自己負担ですが、現地の学費などは主に学校やクラブが負担します。

ローテックス(ROTEX): プログラムを終えたOB・OGがボランティアとして運営を手伝っており、安心感のあるサポート体制が整っています。

厳格な管理と安全対策: 青少年を預かる事業であるため、危機管理と行動規範が非常に厳しく設定されています。

RIJIM(ライジム): RI(国際ロータリー)直轄の保険・管理機構であり、インバウンド学生の日本での治療費負担などを管理しています。

YESシステム: 世界中の派遣生が「誰がどこにいるか」を一目で把握できるシステムで、災害時の安否確認などに活用されます。

移動の制限: 地区外への外出や宿泊には事前の届け出が必要であり、責任の所在を明確にするため、単独での移動が制限される場合もあります。

健康管理: 持病やアレルギー、虫歯などは事前に徹底的に申告・治療しておく必要があります。虚偽があった場合は即帰国となるほど厳格です。

ホストファミリーとクラブの役割

相互交換の原則: 派遣生の家庭が、海外から来る学生のホストファミリーを最初に務めることが基本です。

これにより、預かる側の苦勞を理解し、相互の信頼関係を築きます。

カウンセラー：クラブ側では「カウンセラー」が重要な役割を担い、学生の悩み相談やホストファミリーとの調整など、現場での判断を行います。

現代的な課題への対応

近年では、LGBTQ+やノンバイナリーへの対応、セクシャルハラスメント、無意識のバイアス（偏見）に関する規定も整備されています。多様な背景を持つ学生を受け入れる姿勢を持ちつつ、日本の文化や受け入れ側の状況に合わせた慎重な対応も求められています。このプログラムの究極の目的は、学生が「親善大使」として日本と派遣先の架け橋となり、将来にわたる国際的な繋がりを築くことにあります。

Discuss ホストファミリーの役割

青少年交換プログラムにおいて、ホストファミリーは学生を家族の一員として受け入れ、日常生活を共にする極めて重要な役割を担っています。

ソースに基づいた具体的な役割や特徴

1. 相互交換の原則と理解の促進

最初の受け入れ先：原則として、日本から派遣される学生（アウトバウンド）の家庭が、海外から来る学生（インバウンド）を受け入れる「ファースト・ホストファミリー」を務めます。

相互理解：自身が「預かる側」の大変さを経験することで、自分の子供を海外に預けている側のホストファミリーに対する過度なクレームを防ぎ、感謝と理解の気持ちを持つことが目的の一つです

2. 日常生活の提供と多様な家庭環境

生活の場：共働きや片親の家庭など、形態は様々ですが、学生を温かく迎え入れます。時には、女性のみのお家庭に大柄な外国人の男子学生が住むことになるといったケースもあり、家族としての共同生活を通じた苦勞や工夫が伴います。

費用の負担：日々の食事などの生活基盤を提供します。なお、かつてはクラブ負担だった修学旅行費は現在自己負担に変更されています

3. 安全管理と所在の把握

YESシステムへの登録：災害時の安否確認や安全管理のため、ホストファミリーの住所を世界共通のシステム「YES」に登録することが義務付けられています。
移動の届け出：学生が地区外へ外出や宿泊をする際は、ホストファミリーが同行者や行き先を詳細に報告（地区外届）する必要がある、緊急時の責任の所在を明確にする役割があります。

4. 「親善大使」としての文化交流

日本文化の伝道師：ホストファミリーの優しさや日本での楽しい体験を通じて、学生に「日本を好きになって帰ってもらう」ことが期待されています。帰国した学生が自国で日本の良さを伝えることで、草の根の親善大使としての役割を果たします。

5. 現代的な行動規範の遵守

ハラスメント防止と多様性：青少年保護の観点から、身体的接触（子供を膝に乗せるなど）や、無意識のバイアスによる行動（断りづらい誘いなど）に注意を払うことが求められます。また、LGBTQ+やノンバイナリーといった多様な背景を持つ学生に対しても、可能な範囲で受け入れ、尊重する姿勢が求められています。ホストファミリーは、カウンセラーや学校、ロータリークラブと連携しながら、学生の日本での生活を最も身近で支える存在です。

以上青少年交換と危機管理などを説明させていただきました。皆さん、是非機会があれば子供たちを扱っていただくか、もしくはあの青少年交換委員会に出向していただいで一緒にやっていきたいと思っておりますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。



今週の献立

【 愛 】

